



竜洋西小6年生に働くことのやりがいを話す



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、2月18日（月）、磐田市立竜洋西小学校において、「働いている人から学ぼう」とのテーマで行われた職業講話に、袋井地域事務所長の湯浅幸典二等空尉を講師として派遣した。

これは、磐田市教育委員会の推進事業「磐田の教育道しるべ」に関する授業の一環で、児童に働くことの素晴らしさややりがいを伝え、将来の夢を持ってもらうことと6年生に対して行われたもの。自衛官のほか、調理師や旅行会社添乗員などさまざまな職種に就いている人たちが、教室ごとに分かれて講師を務めた。

制服姿の湯浅所長は、職業当てクイズに解答した児童に自衛隊グッズをプレゼントするなどして、終始児童の笑顔や興味を引き出した。

また、自衛隊の仕事は、ニュースで取り上げられる機会の多い災害派遣だけでなく、国の防衛が主であり、一年中休みなく周辺海空域の警戒監視を行っていることや、陸・海・空自衛隊の中には幅広い仕事があることを説明したほか、昨年初めて女性戦闘機パイロットが誕生したことなどを紹介し、さまざまな職業で男女が同じように活躍する時代になったと話した。

湯浅所長は、最後に「どんな仕事も人を笑顔にすることがやりがいにつながると思う。自分がなりたい職業で将来たくさんの人を笑顔にしてほしい」と伝えて締めくくった。参加した児童からは「自衛官は銃を持って訓練するだけではないと初めて知った」「自衛官の給料を教えてください」と参考になったなどの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後も各学校の授業に協力し、平和の尊さや命の大切さ、防災意識の向上に寄与するとともに、若者が描く将来の夢や可能性の拡大結果に貢献していく。

人生の次なるステージへ 入隊予定者が静浜基地を研修



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、2月19日（火）、航空自衛隊静浜基地（焼津市）で行われた部隊研修に、今春航空自衛隊へ入隊予定の学生等に参加してもらった。研修には、県内各地から9人が参加した。

基地に集合した入隊予定者たちは、初めに資料館において同基地渉外室長の志垣慎一三等空佐から航空自衛官のキャリアプランについて説明を受けた。志垣3佐は、自身の戦闘機パイロットとしての経験を基に、大空を守る仕事の魅力ややりがいなどを伝えた。

その後、航空機格納庫に移動してT-7初等練習機を見学。参加者は実際に操縦席に乗り込み、操縦桿を握ったり、周辺の計器を指さしながら隊員に質問をしていた。

次に、消防小隊において消火作業時に着用する防護服などについて説明を受けた。航空機火災で使用される破壊機救難消防車の放水展示では、隊員の手際良い操作に参加者たちは目を見張っていた。

そのほか、基地の中枢である本部庁舎や航空機を安全に飛行するために必要な管制隊や気象隊、装備品の維持管理をしている整備隊などを見学し、航空自衛隊の多種多様な職種に関する理解を深めるとともに、隊内で生活する隊員の居室でベッドメイクのやり方などを見学して、一安心したようであった。

終了後、参加者からは「入隊後は、自分もパイロットを目指して訓練や勉強に励みたい」「一番不安だった隊内居住区の様子を実際に見て、雰囲気を感じる。ことができ、不安が大きく解消された」などの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後も自衛官が働く様子を实地に見てもらい、入隊者の不安の解消となるように積極的なサポートに努めていく。

これから旅立つ自衛官候補生を激励



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・宮川知己一等空佐）は、2月23日（土）に陸上自衛隊武山駐屯地（神奈川県横須賀市）で行われた「自衛官候補生修了式」に参列し、担当した入隊者を激励した。

昨年11月下旬に県内から入隊した3人の自衛官候補生は、凛々しい姿の自衛官に変わっていた。入隊当初は初めての裁縫に苦戦したり、集団生活で緊張していたようだが、3カ月の教育期間中、仲間とともに切磋琢磨し、同期の絆を深め、逞しく成長したことが一挙一動から感じられた。

県内出身者3人の内、浜北所が入隊を担当した和田晃輔自衛官候補生は、今年度の採用年齢引き上げに伴い30歳で自衛官の道に進み、この度優秀な成績での卒業となった。

和田自衛官候補生からは、入隊後の3カ月間を振り返り「初めは時間に追われていましたが、集団生活にも慣れ、自分で余裕を作ることができるようになりました。また、体力検定では、あと一回、回数を増やせば一級となり体力徽章を付けることができたのに残念です。でも、後期部隊での教育で体力検定一級を取ります！」と頼もしい声を聞くことができた。また、ご家族は「頼もしい声が増して驚きました」と、見違えるほど成長した姿に安心された様子だった。

和田自衛官候補生は、これから後期教育で通信科の隊員となるべく教育を受ける。修了式に同席した担当広報官は「通信科は、自衛隊の指揮を円滑にするために重要な職種。これからは学ぶことはたくさんあるが、身近な目標として体力検定一級を目指して怪我することなく頑張ってください」とエールを送った。

静岡地本は、今後も入隊者と家族との架け橋となるように努め、積極的にサポートを行っていく。